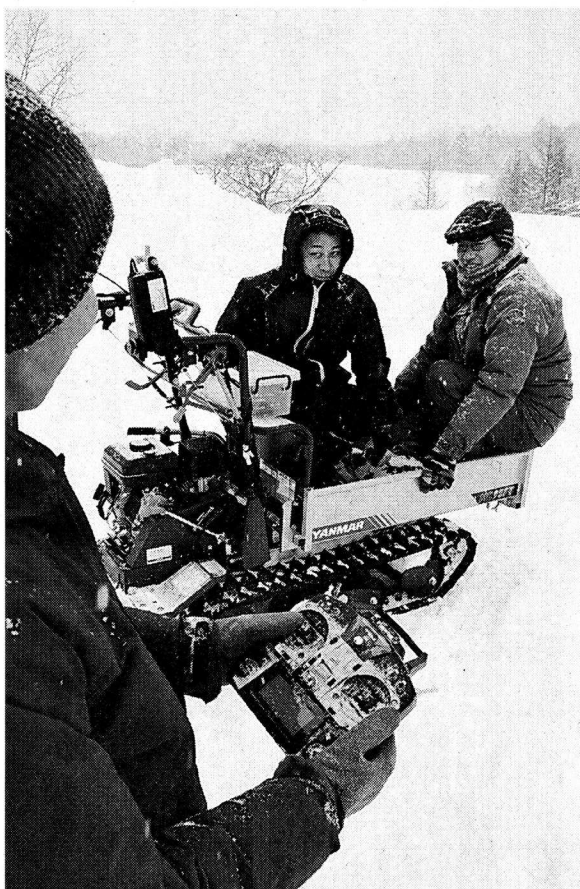


## 災害時 上空からルート指示

# ドローン活用 自動運転実証へ



自動運転システムの実証実験に使う運搬車を試験する富田社長(右)ら

【大樹】次世代ロボットを開発する「レシピシステム」(岐阜県大垣市)は新年度から十勝管内大樹町の山林で、ドローン(小型無人機)を活用し、上空から車両に適切なルートを指示する自動運転システムの実証実験を行う。地滑りや火山など、災害救助の現場で役立てたい考え。公道の自動運転技術は開発が進んでいるが、林道など未舗装の場所での実験は珍しい。

## 岐阜の企業 大樹で実験

同社は大樹町晩成地区でドローンを使ったエゾシカ駆除の実験を行っている「キャリアオ技研」(名古屋市)から独立。自動運転の研究も、土地が広大で起伏に富んでいる同地区で行う。

実験では無限軌道付きの全長1・6メートル、幅69センチの運搬車を使用。カメラやレーザー機器、地形の分析機器を載せたドローンを積んで山林内を移動する。地形が複雑な場所に

なると、車両からドローンを飛ばし、上空からカメラなどで周囲の地形、障害物を把握。分析機器で最適な通行ルートを調べ、運搬車にデータを送信する。車両にもカメラを搭載し、詳しく分析する。

運搬車は重さ350キロの積載能力があり、災害現場まで移動して被災者を乗せ、安全な場所に避難するなどの活用を想定している。

従来の自動運転技術は衛星利用測位システム(GPS)の位置情報や、車両のセンサーを利用。レシピシステムは、ドローンを使うことで、進行方向に先回りするなど、急変しやすい災害現場の状況をより的確に把握しやすいとみる。同社の富田茂社長は「災害だけでなく、人手不足が深刻な森林管理など、多方面で活用できる」と期待する。